

(様式2)

## 迅速発育型非結核性抗酸菌が分離された乳房炎

：伊那家保 佐藤聖子

1 当所の乳汁細菌検査(乳汁検査)では、通常48時間  
2 以内に発育する菌のみを回答。管内1酪農場の乳汁検  
3 査で、48時間以内の培養でコロニーを形成せず、後  
4 日の同一個体の再検査にて48時間以上の培養で多剤  
5 耐性のグラム陽性短桿菌を分離。当該牛は、治療する  
6 も回復せず、分娩後、予後不良で廃用。と畜検査にて  
7 乳房の広範囲壊死と全身状態の悪化を確認。その後、  
8 細菌の同定検査にて迅速発育型非結核性抗酸菌(RG-  
9 NTM)である *Mycobacterium fortuitum* (以下 *M.f*) と  
10 判明。当該牛はヨーネ病エライザ(ELISA)検査で陽  
11 性、リアルタイムPCR検査で陰性となり、ELISA検査  
12 はヨーネ菌以外の抗酸菌に非特異的に反応したと推  
13 察。その後の敷料等の牛舎内環境検査では *M.f* は非検  
14 出。*M.f* 等のRG-NTMによる乳房炎は、通常の乳汁検  
15 査では分離困難。数回の乳汁検査でコロニーを形成せ  
16 ず、ヨーネ病ELISA検査で非特異反応を示す個体の乳  
17 汁の原因菌は、培養時間の延長等で分離できる可能性  
18 がある。今後の乳汁検査方法の一助と考えられた。